

職場における交通安全指導

Part 104

信号のない交差点での自転車の子どもの接触事故

■事故の概要

- 発生日時
日 時：平成24年4月某日 午後2時頃
天 候：晴れ
- 道路状況
片側1車線の県道交差点
- 事故の当事者
運転者A（普通貨物車）：48歳、男性
相手方B（自転車）：9歳、女兒小学生
- 被害状況
A：左側面小破
B：前額部切創および右肘擦過傷、自転車前輪破損

事故状況

運送会社に勤務する運転者Aは、乗務歴25年と経験豊かなドライバーである。仕事内容は固定配送先に食品や雑貨類などを運ぶ業務で、いつも慣れた道路を走行する。

当日の天気は快晴、ポカポカとした春らしい気持ちのいい陽気の中、担当エリア内の道路を走行していた。信号のない交差点に差し掛かったところで自転車に乗っている小学生Bが近づいてきているのが見えた。Aは自車が優先道路を走行していること、また、B側には一時停止の道路標識があり、車がきていることは判っているだろうから止まるだろうと考え速度を落とさず進行した。

ところがBは一時停止することなくそのまま交差点に進入してきたため、慌てて急ブレーキを踏んだが間に合わず、Bの自転車と衝突してしまった。自転車前輪は大きく曲がり、Bは衝突した反動で前にある籠に顔をぶつけ怪我を負った。Aの車両は左側面に凹みがあった。

この事故の原因は、Aが走行している道路が優先道路であるという意識と、相手が一時停止するだろうという思い込み、また何年と走り慣れてい



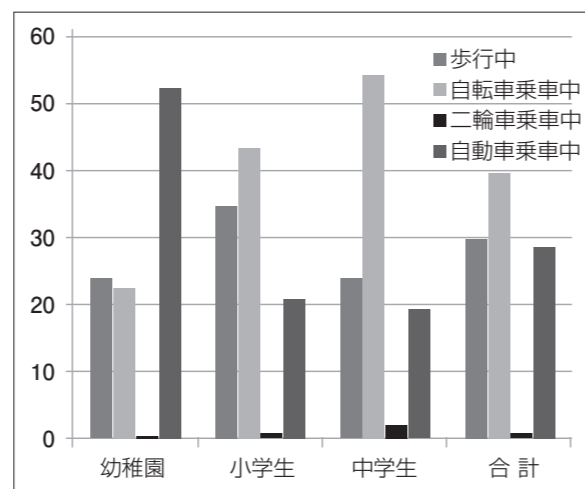
る道路であり、今まで事故をしたことがないという過信も重なり警戒意識の希薄によるものと考えられる。

一方Bは、トラックがきていることには気が付いていたが、まだ距離があるから先に通過できると判断したという。また、いざというときはトラックが止まってくれるんじゃないかと思ったという。

子どもは大人と違って接近する車両との距離が的確に判断できず、実際の距離より遠くにあると判断して不用意に交差点に進入するケースがあります。また子どもは交通ルールをよく理解できず、交差点での「信号無視」、「一時不停止」、「安全不確認」などにより事故になることが多いのです。今回の事故はお互いの判断ミスとドライバーの慢心により起きた事故といえます。

安全指導

① 子どもの交通事故



「神奈川県警察本部交通部交通総務課発表の平成26年神奈川県内における子どもの交通事故によると、幼稚園児の事故は自転車乗車中が23.1%となっています。小・中学生になると43.5%（小学生）、54.4%（中学生）と最も多く、自転車乗車中による交通事故が高い比率で発生していることが判ります。また、自転車乗車中での負傷者の65.2%は交差点の安全進行等のなんらかの違反により事故になっているとの結果が出ています。

このことから、交差点において、子どもの自転車と接近した場合には、十分に注意を払った走行が必要であり、また住宅地での信号のない交差点は一層の警戒が必要です。

② 子どもの行動特性

◎ 交通ルールの認識が甘い

子どもは親から注意を受けて自動車に対して警戒することはあっても、標識など交通ルールはよく理解してなく、一時停止の標識で停止しないなど交通ルールをしっかり守る意識が薄いと言えます。また、標識があってもよく見ないでそのまま進行するケースがあるので、一時停止があるから「止まるだろう」という憶測は厳禁です。

◎ 交差点での自転車走行

自転車の場合、一度止まってしまうと漕ぎだしが面倒になるため、走行しながら交差点に進入することが多いのが特徴です。子どもだけでなく大人もこうした行動をとることがあるので、交差点で自転車と遭遇したら十分に注意が必要です。

◎ 子どもは自己中心的

周りの状況を把握しながら行動する子どもは少なく、どちらかというと自己中心的な行動をとることが多く、大人が思ってもみない行動をすることがあります。親や友達が近くにいると警戒心が極端に乏しくなり、周りを見ないで行動することが多いので複数で行動している子どもを見たら要注意です。

◎ 子どもの視野は狭い

子どもの目の高さは大人と比べて低いため、見える範囲がとても狭いです。また視界も左右上下ともに狭いため、車が近づいていても気が付かないことが多いのです。ドライバーは、子どもの特性を十分理解し対応しなくてはなりません。

③ 事故防止のポイント

◎ 登下校の時間帯や幼稚園の送迎バスが止まる場所、通学路、公園付近、学校周辺など、子どもの多い生活道路や時間帯を事前に把握して、なるべく住宅地を走行しないということも事故防止に繋がります。

◎ 子どもの行動は、予測することが難しいので、決して大人の常識で判断せず、どんな状況でも対応できるよう十分な注意を払い、いつでも事故回避できる体勢で運転してください。

特に、親や友達などと一緒に子どもが歩いている時は警戒心が薄くなっています。突然の飛び出しも予測し、いつでも止まれる速度で走行するよう心掛けてください。

◎ 子どもと交差点で遭遇した場合は、自分が優先道路を走行中でも、先に通行させることも事故に遭わない工夫といえます。常に心に余裕を持つことが重要です。

また、交差点を走行する際は、たとえ自転車や歩行者の姿が見えなくても、自転車の場合スピードが速く、発見した時、ブレーキを踏んでも間に合わず衝突してしまうケースもあるので、「・・・かもしれない」という警戒心をもって運転するよう意識を常に高く持ってください。

◎ 自転車の側方を通過するときは、十分な間隔をとってください。自転車はちょっとした路面の変化でもバランスを崩しやすく、またトラックは車高が高いため、接触しなくても側方を通過しただけで、驚いて転倒する場合もあるので、追い越す時には、速度を落として十分な間隔を取って走行してください。

事故は絶対に起こさないという強い気持ちを日々持って走行しましょう。



スマホや携帯の「ながら運転」は危険！

～ いっときの スマホ操作が 事故のもと ～



「だらう習慣」を見なおそう！

～ バック時の 死角に事故が ひそんでる ～